

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 19 年 11 月 29 日 (2007.11.29)

【公開番号】特開 2002-129042 (P2002-129042A)

【公開日】平成 14 年 5 月 9 日 (2002.5.9)

【出願番号】特願 2000-323611 (P2000-323611)

【国際特許分類】

**C 0 8 L 101/16 (2006.01)**

**C 0 8 L 27/18 (2006.01)**

**C 0 8 L 67/04 (2006.01)**

**C 0 8 L 101/00 (2006.01)**

【F I】

C 0 8 L 101/16 Z B P

C 0 8 L 27/18

C 0 8 L 67/04

C 0 8 L 101/00

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 10 月 17 日 (2007.10.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

粒子径 10  $\mu$ m 以下のポリテトラフルオロエチレン粒子と有機重合体とを含有するポリテトラフルオロエチレン含有混合粉体を有する生分解性樹脂用の改質剤。

【請求項 2】

生分解性樹脂 (A) 100 質量部に対して、粒子径 10  $\mu$ m 以下のポリテトラフルオロエチレン粒子と有機重合体とを含有するポリテトラフルオロエチレン含有混合粉体 (B) が、ポリテトラフルオロエチレン成分の量が 0.01 ~ 20 質量部になるように配合されている生分解性樹脂組成物。

【請求項 3】

前記生分解性樹脂 (A) の主成分が脂肪族ポリエステル樹脂であることを特徴とする請求項 2 記載の生分解性樹脂組成物。

【請求項 4】

前記脂肪族ポリエステル樹脂の主成分が、ポリ乳酸であることを特徴とする請求項 3 記載の生分解性樹脂組成物。

【請求項 5】

前記脂肪族ポリエステル樹脂は、脂肪族グリコールと脂肪族ジカルボン酸またはその誘導体を主成分とした反応により得られるものであることを特徴とする請求項 3 記載の生分解性樹脂組成物。

【請求項 6】

前記脂肪族ポリエステル樹脂の主成分がポリカプロラク톤であることを特徴とする請求項 3 記載の生分解性樹脂組成物。

【請求項 7】

生分解性樹脂 (A) と、粒子径 10  $\mu$ m 以下のポリテトラフルオロエチレン粒子と有機重合体とを含有するポリテトラフルオロエチレン含有混合粉体 (B) とを有するマスター

ペレットが、さらに生分解性樹脂（Ａ）に配合され、ポリテトラフルオロエチレン成分の量が該生分解性樹脂（Ａ）の総量１００質量部に対して、０．０１～２０質量部である生分解性樹脂組成物。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

本発明の生分解性樹脂用の改質剤は、粒子径１０μｍ以下のポリテトラフルオロエチレン粒子と有機重合体とを含有するポリテトラフルオロエチレン含有混合粉体を有することを特徴とするものである。

本発明の生分解性樹脂組成物は、生分解性樹脂（Ａ）１００質量部に対して、上記改質剤が、ポリテトラフルオロエチレン成分の量が０．０１～２０質量部になるように配合されていることを特徴とするものである。

ここで、生分解性樹脂（Ａ）の主成分が脂肪族ポリエステル樹脂であることが望ましい。

さらに、その脂肪族ポリエステル樹脂の主成分が、ポリ乳酸、脂肪族グリコールと脂肪族ジカルボン酸またはその誘導体を主成分とした反応により得られるもの、ポリカプロラクトンであることが望ましい。

また、生分解性樹脂組成物としては、生分解性樹脂（Ａ）と、上記改質剤とを有するマスターペレットが、さらに生分解性樹脂（Ａ）に配合され、該生分解性樹脂（Ａ）の総量１００質量部に対して、ポリテトラフルオロエチレン成分の量が０．０１～２０質量部とされているものも望ましい。